



酒井はやみ議員
(日本共産党
幕別町議員団)



40年ぶりに小学校の学級規模縮小(35人学級)が実現

したことは一歩前進ではあるが、20人台が当たり前の欧米諸国と比べれば大きすぎる。中学校2・3年生はいまだに40人学級のままであり、増加する不登校の児童生徒への丁寧な対応や、教職員の多忙化解消にとっても少人数学級は喫緊の課題。

本格的な少人数学級は、子ども全員が主体的に参加するなど授業のありかたを変える、学級の雰囲気落ちつき安心が広がる、インクルーシブ教育への可能性が生まれるなど、教育に新しい可能性をもたらす。

少人数学級化を加速させるとともに、教育環境の整備を進めるために、以下伺う。

- (1) 中学校で35人、小学校で30人を超える学級数。
- (2) 特別支援学級在籍を含めて、中学校で40人、小学校で35人を超える学級数。
- (3) 中学校35人、小学校30人学級の

問

少人数学級の推進、教育環境の整備を

答 学校施設の計画的な整備、改修を推進している

実現に必要な予算。

- (4) 少人数学級を推進する考えは。現場へ出向いての実態調査や教職員・児童生徒・保護者の声を聞く考えは。
- (5) 教室に個人ロッカー設置を。
- (6) 自転車通学の子どもたちにヘルメットの購入助成を。

教育長

- (1) 中学校は、札内中学校、札内東中学校の計2校5学級。令和6年度は同じく2校5学級、7年度が1校2学級、8年度はなくなる見通し。

小学校は、白人小学校、札内南小学校の計2校5学級。令和6年度、7年度が3校5学級、8年度が3校4学級となる見通し。

- (2) 中学校は、札内東中学校1校2学級。令和6年度、7年度も1校2学級で、8年度はなくなる見通し。

小学校は、白人小学校、札内南小学校の2校5学級。令和6年度、7年度が3校5学級で、8年度が3校4学級となる見通し。

答

学校施設の計画的な整備、改修を推進している

- (3) 本年度の児童生徒数を基に学級編成した場合、中学校は2校で2学級の増、小学校は2校で3学級の増となる。会計年度任用職員を採用している他町の例では、教員一人当たり年間約350万円となっており、本町で5学級増となり、5人の教員を独自採用すると、年間合計で約1千750万円の人件費が必要と想定される。

(4) 学校長を通じて、教職員からの声もあることを確認しているが、町独自で少人数学級の配置を行うことは、教員の独自採用や教室の確保等の課題もあり、現時点では実施は難しい。特別支援教育支援員の配置など、本町独自の支援策により児童生徒へのきめ細かな対応に努めていく。

- (5) 現在、ロッカーが設置されていないのは札内中学校のみだが、教室が狭くなることもあり、これまでに要望がなかった。

学校の施設や設備など、計画的に修繕や更新を行っており、札内中学校の普通教室へのロッカー設

置についても、学校と十分協議しながら判断していきたい。
(6) 通学に自転車を利用している児童生徒は全体の24%となっている。ヘルメットの着用は事故発生時に被害軽減効果があり、自転車通学者のみならず、全ての児童生徒に手だてが必要と考えられると、限られた予算の中で購入助成することは難しい。
現状として、ヘルメットの保管場所に困っている学校はないが、今後の普及状況、個々の学校の状況に応じて、ヘルメットの保管場所を用意していく。

